

【ATC フィロソフィ②】

こんにちは、アークテックコム株式会社で、技術書類の作成と翻訳を行っています豊原 信です。



ウェブサイト：
<https://arc-tec-com.com>

Tel : 050-6864-6201

Fax : 050-6864-6202

E-mail : m.toyohara@arcteccom.jp

より良い仕事をするには

今月は弊社のフィロソフィの紹介と応援メッセージをお送りします。

弊社のフィロソフィの続きです。

物事を明るく善意に受け止める

たとえどんなことがあるうとも、物事をいい方に、善意に解釈していくことが大切です。悪い方に悪意に受け取っては、人生はどんどん暗くなります。

仮に相手が自分に対して悪意を持って何かを仕掛けようとも、「あの人はバカじゃないだろうか」と疑われるくらい、ニコニコしながら受け流すのです。そんなあなたを見て「あの人はよほどのバカだよ。あそこ

で怒らなくてどうするのだ」と見下す人もいるかもしれませんが、そういうくだらない悪意に満ちた悪口などは、気にせず笑い飛ばすことです。

そう言う私自身、必ずしもそうできているわけではありません。もし馬鹿にされたり軽蔑されたりすれば腹立ちますが、ニコニコしながら聞き流し、これも私の心が招いたもので、私の心の鏡なのだと考え、決して悪く取らないように努力します。自分の心の中の不具合ですから、自分で落ち着いて対処できます。そのためにも、常に物事を明るく考えることが必要だろうと思います。

世の現象はすべて、自分の心が招いたものです。暗

く拗ねた心で送る人生は、ろくなものではないはずで
す。その意味からも、物事を明るく善意に取って毎日を過ごすということは、非常に大事なことです。決して感性的な悩みをしないことです。

2.より良い仕事をする 仲間の為に尽くす

人の行いの中で最も美しく尊いものは、人のために何かをしてあげるとい
う行為です。人はふつう、まず自分のことを第一に考えがちですが、実は誰でも人の役に立ち、喜ばれることを最高の幸せとする心を持っています。

かつて、真冬のアメリカで起きた飛行機事故

で、アーランド・ウィリアムズ・ジュニアという男性が、救助ヘリが到着するまでに、2度も命綱を近くの女性に譲り、その後で水中に沈んでしまいました。人間の本性とはそれほど美しいものなのです。

「世のため人のために尽くすことが人間として最高の行為である」と言われています。この「仲間のために」ということは、「世のため人のために」尽くすということに比較すると、狭い範囲の利他行と思われがちですが、たいへん大事なことなのです。

学ぶことで人間性を高める

学ぶ目的は、宇宙や自然も含め快適で安心して安全に過ごせる世の中を創り上げる胆識を得るためです。机上で知識を学び、それを繰返し繰返し学習することで見識に高め、自分の信念にする。そうして、実社会や現場に出て見識を使って実践する。繰返し実践

することで創意工夫や改善の知恵が構築されます。この見識に知恵と勇気が一体に成ったものが胆識です。この胆識でもって、世の為人の為、自然や宇宙との共生が可能に成ります。

信頼関係を築く

信頼関係を築くには、信頼関係を築こうとまず思うことから始めます。そのために、お互いに相手のことを良く知ることが大切になります。よく知るには、相手の話をしっかりと聞くことです。しっかりと聞くには、感情や利己の心を抑えて、相手のことを思いやりながら聞くことです。そうすると、お互いに心が開いてきて、信頼感が芽生えます。次に信頼感の芽を育てることが必要です。

育てる方法として、お互いに優しい思いやりの心を持って常に接することが大切です。さまざまな情報交換や会話等を通じ、全員が心を開き、結びつきを強め

る環境をつくることも重要です。お互いを思いやる気持ちと信頼関係があれば、本音で言いたいことをはっきり言い合うことができるようになります。

それによって、問題点が誰の目にも明らかとなって物事がスムーズに運んでいくのです。こうした信頼関係を築くためには、日頃からみんなの心の結びつきをつくり上げるよう、お互いに努力することが必要です。

本音で仕事をする

責任を持って仕事をやり遂げていくためには、仕事に関係している人々が、お互いに気づいた欠点や問題点を遠慮なく指摘し合うことが必要です。

物事を「なあなあ」で済まさずに、絶えず「何が正しいか」に基づいて本音で真剣に議論していかなければなりません。欠点や問題に気づいていながら、嫌われるのを恐れるあまり、それらを指摘せずに和を保とうとする

のは大きな間違いです。

ときには口角泡を飛ばしてでも、勇気を持ってお互いの考えをぶつけ合っていくことが大切です。こうした中から、本当の意味でお互いの信頼関係も生まれ、より良い仕事ができるようになるのです。これは正しい判断をするために必要なことです。

問題を解決していこうと思えば、本当は「あなたのやり方のここが問題だ」と思っています。こうすべきでしょう」と本質を議論しなければならないのに、そういう言い方をすれば、角が立つ上に後々問題になると思って、皆言わないわけです。ストレートなものの言い方をして人間関係が壊れてしまっただけで困ると、どうしても建前で話をしてしまう。このように穏便に物事を進めるやり方は、処世術のひとつとも言われています。

しかし、建前や常識論でいい仕事ができるわけがありません。本質を抑えて、

指摘し合うことが必要なのです。そうすることで正しい判断ができ、道を間違えないで済むのです。この時、相手にとって何が一番良いかを、相手の立場で考え指摘する思いやりが必要です。

※2025年01月号に続きます。

応援メッセージです。

感謝は無敵

「ありがとう」を口にしましょう。まず言葉ありきです。偉大なイエス・キリストも言っている「まず言葉ありき」と思います。

初めは気持ちに伴わなくとも、「ありがとう」を口にしてみましょう。

まちがっても、「コノヤロー」から口にしない。当然「駄目だ」も言わないことです。

初めは気持ちに伴わない「ありがとう」が、そのうちに心が伴う「ありがとう」に変化していきます。

心が伴う「ありがとう」が言えるようになると、天下無敵です。この心が伴っ

た「ありがとう」が一番聞いているのが自分自身なのです。繰り返し、繰り返し聞いている内に、潜在意識に心が伴った「ありがとう」が浸透します。そうすると、無意識化で、勝手に心が伴った「ありがとう」がドンドン出て来るようになります。

ドンドン出て来る心が伴った「ありがとう」に、引き寄せられるように、あなたの周りには、「ありがとう」を言うべき事象が集まって来ます。これが幸せサイクルです。

初めの一步はとても大切です。何でもないこと、何も変わらない、でも、続けると、とんでもないことになるのです。続けるために、潜在意識にまで落とし込む。その切っ掛けは、自分自身で意識して作り出す。そうやって自分自身の人生を創り上げていくことが出来ます。

豊原 信